

## ○国立大学法人上越教育大学政府調達事務取扱要項

(平成16年4月1日学長裁定)

最終改正 平成31年1月17日

(趣旨)

- 1 この要項は、1994年4月15日マラケシュで作成された政府調達に関する協定、2012年3月30日ジュネーブで作成された政府調達に関する協定を改正する議定書によって改正された協定(以下「改正協定」という。)その他の国際約束を実施するため、国立大学法人上越教育大学(以下「本法人」という。)の締結する契約のうち国際約束の適用を受けるものに関する事務の取扱いについて必要な事項を定める。

(定義)

- 2 この要項において、次の各号に掲げる用語の意義は、当該各号に定めるところによる。

- (1) 物品等 動産(現金及び有価証券を除く。)及び著作権法(昭和45年法律第48号)第2条第1項第10号の2に規定するプログラムをいう。
- (2) 特定役務 「改正協定の附属書I」日本国の付表5に掲げるサービス及び同附属書I日本国の付表6に掲げる建設サービス(本要項において「建設工事」という。)に係る役務をいう。
- (3) 調達契約 物品等又は特定役務の調達のため締結される契約(当該物品等又は当該特定役務以外の物品等又は役務の調達が付随するものを含み、民間資金等の活用による公共施設等の整備等の促進に関する法律(平成11年法律第117号)第2条第2項に規定する特定事業(建設工事を除く。)にあっては、民間資金等の活用による公共施設等の整備等の促進に関する法律の一部を改正する法律(平成23年法律第57号)による改正前の同項に規定する特定事業を実施するため締結される契約に限る。)をいう。
- (4) 一連の調達契約 特定の需要に係る一の物品等若しくは特定役務又は同一の種類  
の2以上の物品等若しくは特定役務の調達のため締結される2以上の調達契約をいう。

(適用範囲)

- 3 この要項は、本法人の締結する調達契約で、当該調達契約に係る契約予定価格(物品等の借入れに係る調達契約又は一定期間継続して提供を受ける特定役務の調達契約において、借入期間又は提供を受ける期間の定めが12月以下の場合は、当該期間における予定賃借料の総額又は特定役務の契約予定価格の総額、その期間の定めが12月を超える場合は当該期間における予定賃借料の総額又は特定役務の契約予定価格の総額に見積残存価額を加えた額とし、その他の場合は、1月当たりの予定賃借料又は1月当たりの特定役務の契約予定価格に48を乗じて得た額とする。)が次の各号に掲げる区分に応じ当該各号に定める額以上であるもの(以下「特定調達契約」という。)に関する事務について適用する。ただし、有償で譲渡(加工又は修理を加えた上とする譲渡を含む。)をする目的で取得する物品等若しくは当該物品等の譲渡(加工又は修理を加

えた上である譲渡を含む。) をするために直接に必要な特定役務 (当該物品等の加工又は修理をするために直接に必要な特定役務を含む。) 又は有償で譲渡をする製品の原材料として使用する目的で取得する物品等若しくは当該製品の生産をするために直接に必要な特定役務の調達契約に関する事務については、この限りでない。

(1) 物品等の調達契約 国の物品等又は特定役務の調達手続の特例を定める政令 (昭和55年政令第300号) (以下「国の特例政令」という。) 第3条第1項に規定する財務大臣の定める額

(2) 特定役務のうち建設工事の調達契約 国の特例政令第3条第1項に規定する財務大臣の定める額

(3) 特定役務のうち建設のためのサービス、エンジニアリング・サービスその他の技術的サービスの調達契約 国の特例政令第3条第1項に規定する財務大臣の定める額

(4) 特定役務のうち前2号以外の調達契約 国の特例政令第3条第1項に規定する財務大臣の定める額

4 前項の契約予定価格は、調達契約に関し国立大学法人上越教育大学契約事務取扱規程 (平成16年規程第62号。以下「契約事務取扱規程」という。) 第15条第2項ただし書の規定する単価についてその契約予定価格が定められる場合には、当該契約予定価格に当該調達契約により調達すべき数量を乗じた額とし、一連の調達契約が締結される場合には、当該一連の調達契約により調達をすべき物品等又は特定役務の契約予定価格の合計額とする。

(参加のための条件)

5 学長は、調達の要件を満たすために不可欠な場合には、契約実績を要求することができるが、契約実績を日本国の領域において取得していることを条件として課してはならない。

(競争参加者の資格に関する審査等)

6 学長は、特定調達契約の締結が見込まれるときは、契約事務取扱規程第6条第2項の規定による審査を随時に行わなければならない。

7 学長は、前項の審査を行った場合には、合理的に短い期間内に、一般競争に参加しようとする者に対し登録が許可されたかどうかを通知しなければならない。

8 学長は、契約事務取扱規程第6条第1項の規定により一般競争に参加する者に必要な資格が定められている場合において、特定調達契約の締結が見込まれるときは、当該特定調達契約の締結の見込まれる年度毎に、当該資格の基本となるべき事項並びに同条第2項に規定する申請の時期及び方法等について、官報により公示しなければならない。

9 学長は、契約事務取扱規程第6条第4項において準用する同条第1項の規定により指名競争に参加する者に必要な資格が定められている場合において、特定調達契約の締結が見込まれるときは、随時に指名競争に参加しようとする者の申請を待って、その者が当該資格を有するかどうかを審査しなければならない。

10 学長は、契約事務取扱規程第6条第4項において準用する同条第1項の規定により

指名競争に参加する者に必要な資格が定められている場合において、特定調達契約の締結が見込まれるときは、当該特定調達契約の締結の見込まれる年度毎に、当該資格の基本となるべき事項並びに同条第4項において準用する同条第2項に規定する申請の時期及び方法等について、官報により公示しなければならない。

11 学長は、第8項及び前項の規定による公示においては、次の各号に掲げる事項を明らかにしなければならない。

(1) 調達する物品等又は特定役務の種類

(2) 契約事務取扱規程第6条第1項（同条第4項において準用する場合を含む。）に規定する資格の有効期限及びその更新手続

12 学長は、特定調達契約に関する事務について、指名競争に参加する資格を有する者の名簿を作成しなければならない。

（一般競争の公告）

13 国立大学法人上越教育大会計規則（平成16年規則第16号。以下「会計規則」という。）第6条第3号に規定する会計機関（以下「調達役」をいう。）は、特定調達契約を会計規則第41条の競争（以下「一般競争」という。）に付そうとするときは、その入札期日の前日から起算して少なくとも40日前（一連の調達契約に関し、その最初の契約に係る入札の公告において、その後の契約に係る入札の公告において24日以上40日未満の入札期間を定めることを示す場合には、当該その後の契約については、その定めた期日まで）に官報により公告しなければならない。ただし、急を要する場合には、その期間を10日までに短縮することができる。

14 調達役は、入札者若しくは落札者がいない場合又は落札者が契約を結ばない場合において、更に入札に付そうとするときは、前項による公告の期間は短縮することができないものとする。

（一般競争について公告する事項）

15 前項の規定による公告は、次の各号に掲げる事項について行うものとする。

(1) 一般競争入札に付する事項

(2) 一般競争に参加する者に必要な資格に関する事項

(3) 契約条項を示す場所

(4) 一般競争を執行する場所及び日時

(5) 入札保証金に関する事項

(6) 一連の調達契約は、当該一連の調達契約のうちの一の契約による調達後において調達が予定されている物品等又は特定役務の名称、数量及びその入札の公告の予定時期並びに当該一連の調達契約のうち最初の契約に係る入札の公告の日付

(7) 契約事務取扱規程第6条に規定する資格の申請の時期及び場所

(8) 第29項に規定する文書の交付に関する事項

(9) 落札者の決定の方法

16 調達役は、前項の公告において、当該公告に示した競争に参加する者に必要な資格のない者のした入札及び入札に関する条件に違反した入札は無効とする旨を明らかにしなければならない。

- 17 調達役は、第15項の規定による公告において、当該職員の氏名及びその所属する部局の名称並びに契約の手續において使用する言語を明らかにするほか、次の各号に掲げる事項を、英語、フランス語又はスペイン語により、記載するものとする。
- (1) 調達する物品等又は特定役務の名称及び数量
  - (2) 入札期日又は契約事務取扱規程第6条に規定する資格の申請の時期
  - (3) 学長の氏名及びその所属する法人の名称  
(指名競争の公示等)
- 18 調達役は、特定調達契約を会計規則第42条の競争（以下「指名競争」という。）に付そうとするときは、第13項の規定の例により、公示をしなければならない。
- 19 前項の規定による公示は、第15項から第17項までの規定により一般競争について公告をするものとされている事項のほか、契約事務取扱規程第7条に規定する指名基準についても、行うものとする。
- 20 前項の基準により指名される競争参加者に対しては、第15項第1号及び第3号から第5号までに掲げる事項を第18項の規定による公示の日において、当該競争参加者に通知するものとする。
- 21 前項の場合においては、前項により通知しなければならない事項のほか、次に掲げる事項を通知しなければならない。
- (1) 一連の調達契約にあつては、第15項第6号に掲げる事項
  - (2) 契約の手續において使用する言語  
(公告又は公示に係る一般競争又は指名競争に参加しようとする者の取扱い)
- 22 学長は、調達役が特定調達契約を一般競争に付そうとする場合において公告をし又は指名競争に付そうとする場合において第18項の規定による公示をした後、当該公告又は公示に係る一般競争又は指名競争に参加しようとする者から契約事務取扱規程第6条の規定による競争参加者の資格について申請があつたときは、速やかにその者が同条第1項又は第2項に規定する資格を有するかどうかについて審査を開始しなければならない。
- 23 調達役は、特定調達契約に係る指名競争の場合においては、前項の規定による審査の結果、契約事務取扱規程第6条第4項において準用する同条第1項に規定する資格を有すると認められた者のうちから、指名されるために必要な要件を満たしていると認められる者を指名するとともに、その指名する者に対し、第20項に規定する事項及び第21項各号に掲げる事項を通知しなければならない。
- 24 調達役は、特定調達契約につき一般競争又は指名競争に係る資格審査の申請を行った者から入札書が第22項の規定による審査の終了前に提出された場合においては、その者が開札の時において、一般競争の場合にあつては第15項第2号に規定する競争に参加する者に必要な資格を有することを認められることを、指名競争の場合にあつては前項の規定により指名されていることを条件として、当該入札書を受理するものとする。
- 25 調達役は、第22項の資格審査の申請があつた場合において、開札の日時まで同項の規定による審査を終了することができないおそれがあると認められるときは、あら

かじめその旨を当該申請を行った者に通知しなければならない。

(郵便等による入札)

- 26 調達役は、特定調達契約につき郵便又は民間事業者による信書の送達に関する法律(平成14年法律第99号)第2条第6項に規定する一般信書郵便事業者若しくは同条第9項に規定する特定信書便事業者による同条第2項に規定する信書便による入札を禁止してはならない。

(技術仕様)

- 27 調達役は、環境に関するラベルのために定める環境を害しない技術仕様又は欧州連合若しくは日本国において効力を有する関係法令に定める環境を害しない技術仕様を適用する場合には、これらの技術仕様に関し、次の各号に掲げる事項を確保しなければならない。

(1) 契約の対象である物品又はサービスの特性を定めるために適当なものであること。

(2) 客観的に検証可能かつ無差別な基準に基づくものであること。

- 28 調達役は、調達の実施に関する環境上の条件を定めることができる。ただし、当該環境上の条件が、国際約束に定める規則と両立しており、かつ、調達計画の公示において又は調達計画の公示若しくは入札説明書として使用される他の公示において示されている場合に限る。

(入札説明書の交付)

- 29 調達役は、特定調達契約につき一般競争又は指名競争に付そうとするときは、これらの競争に参加しようとする者に対し、その者の申請により、次の各号に掲げる事項を記載した入札説明書を交付するものとする。

(1) 第15項又は第19項の規定により公告又は公示するものとされている事項(ただし、第15項第8号に掲げる事項を除く。)

(2) 調達をする物品等又は特定役務の仕様その他の明細

(3) 開札に立ち会う者に関する事項

(4) 学長の氏名並びにその所属する法人の名称及び所在地

(5) 契約の手續において使用する言語

(6) 契約の手續において電子的手段を用いる場合には、当該電子的手段に関する事項

(7) その他必要な事項

(落札)

- 30 調達役は、他の入札書に記載された価格よりも異常に低い価格を記載した入札書を受領した場合には、当該価格が世界貿易機関の補助金及び相殺措置に関する協定上の補助金の交付を考慮に入れたものであるかどうかについて、当該入札書を提出した入札者に確認を求めることができる。

(随意契約によることができる場合)

- 31 特定調達契約については、次の各号に掲げる場合に該当するときに限り、会計規則第43条の随意契約によることができる。

(1) 一般競争又は指名競争に応ずる入札がない場合、行われた入札がなれ合いによる場合若しくは入札に関する条件に合致していないものである場合、ただし、当初の

入札の要件が契約の締結に当たって実質的に修正されないことを条件とする。

- (2) 他の物品等をもって代替させることができない芸術品又は特許権等の排他的権利に係る物品等若しくは特定役務を調達するときに、当該調達の相手方が特定されているとき。
- (3) 既に調達した物品等（以下、この号において「既調達物品等」という。）の交換部品その他既調達物品等に接続して使用する物品等を調達する場合であって、既調達物品等の調達の相手方以外の者から調達をしたならば既調達物品等の使用に著しい支障を生ずるおそれがあるとき。
- (4) 本法人の委託に基づく研究開発の結果製造された試作品等を調達する場合
- (5) 既に契約を締結した建設工事（以下、この号において「既契約工事」という。）について、施工上予見し難い事由が生じたことにより既契約工事を完成するために施工しなければならなくなった追加の建設工事（以下、この号において「追加工事」という。）で当該追加工事の契約に係る契約予定価格に相当する金額（この号に掲げる場合に該当し、かつ、随意契約の方法により契約を締結した既契約工事に係る追加工事がある場合には、当該追加工事の契約金額（当該追加工事が2以上ある場合には、それぞれの契約金額を合算した金額）を加えた額とする。）が既契約工事の契約金額の100分の50以下であるものの調達をする場合であって、既契約工事の調達の相手方以外の者から調達したならば既契約工事の完成を確保する上で著しい支障が生ずるおそれがあるとき。
- (6) 計画的に実施される施設の整備のために契約された建設工事（以下、この号において「既契約工事」という。）に接続して当該施設の整備のために施工される同種の建設工事（以下、この号において「同種工事」という。）の調達をする場合、又はこの号に掲げる場合に該当し、かつ、随意契約の方法により契約が締結された同種工事に連結して新たな同種工事の調達をする場合であって、既契約工事の調達の相手方以外の者から調達することが既契約工事の調達の相手方から調達する場合に比べて著しく不利と認められるとき。ただし、既契約工事の調達契約が第6項から前項までの規定により締結されたものであり、かつ、既契約工事の入札に係る第15項、第16項及び第17項の公告又は第18項、第19項及び第20項の公示においてこの号の規定により同種工事の調達をする場合が明らかにされている場合に限る。
- (7) 緊急の必要により競争に付すことができない場合
- (8) 事業協同組合、事業協同小組合若しくは協同組合連合会又は商工組合若しくは商工組合連合会の保護育成のためこれらの者から直接に物品等を買入れるとき。  
(落札者の決定に関する通知等)

32 調達役は、特定調達契約につき一般競争又は指名競争に付した場合において、落札者の決定をしたときは、その日の翌日から起算して7日以内に、落札者を決定したこと、落札者の氏名及び住所並びに落札金額を、落札者とされなかった入札者に書面により通知するものとする。この場合において、落札者とされなかった入札者からの請求があるときは、当該請求を行った入札者が落札者とされなかった理由（当該請求を行った入札者の入札が無効とされた場合にあつては、無効とされた理由）を、当該請

求を行った入札者に通知するものとする。

33 調達役は、特定調達契約につき、一般競争又は指名競争により落札者を決定したとき、又は随意契約の相手方を決定したときは、その翌日から起算して72日以内に、次の各号に掲げる事項を官報により公示しなければならない。

- (1) 落札又は随意契約に係る物品等又は特定役務の名称及び数量
- (2) 学長の氏名並びに法人の名称及び所在地
- (3) 落札者又は随意契約の相手方を決定した日
- (4) 落札者又は随意契約の相手方の氏名及び住所
- (5) 落札金額又は随意契約に係る契約金額
- (6) 契約の相手方を決定した手続
- (7) 一般競争又は指名競争に付することとした場合には、第15項、第16項及び第17項の規定による公告又は第18項、第19項及び第20項の規定による公示を行った日
- (8) 随意契約による場合にはその理由
- (9) その他必要な事項

(一般競争又は指名競争に関する記録)

34 調達役は、特定調達契約につき一般競争又は指名競争に付した場合において、落札者を決定したときは、次に掲げる事項について、記録（契約の手続において電子的手段を用いた場合には、その電磁的記録を含む。）を作成し、落札の日から少なくとも3年間保管するものとする。

- (1) 入札者及び開札に立ち会った者の氏名
- (2) 入札者の申込みに係る価格
- (3) 落札者の氏名、落札金額及び落札者の決定の理由
- (4) 無効とされた入札がある場合には、当該入札の内容及び無効とされた理由
- (5) 第25項の規定により通知した場合には、その通知に関する事項
- (6) その他必要な事項

(随意契約に関する記録)

35 調達役は、特定調達契約につき随意契約によった場合には、当該随意契約の内容及び随意契約によることとした理由について、記録を作成し、落札の日から少なくとも3年間保管するものとする。

(苦情の処理)

36 学長は、特定調達契約につき落札者とされなかった入札者からの苦情その他特定調達契約に係る苦情の処理に当たる職員を指定するものとする。

(特定調達契約に関する統計)

37 学長は、文部科学省の依頼により特定調達契約に関する統計を作成し、文部科学省に送付するものとする。

(その他)

38 この要項に定めるもののほか、この要項の実施に関し必要な事項は、別に定める。

## 附 則

1 この要項は、平成16年4月1日から施行する。

- 2 この要項は、この要項の施行の日前において行われた公告その他の契約の申込みの誘引に係る契約で、同日以後に締結されるものに関する事務については、適用しない。

**附 則（平成26年2月26日）**

- 1 この要項は、改正協定が日本国について効力を生ずる日から施行する。
- 2 この要項は、この要項の施行の日前において行われた告示その他の契約の申込みの誘引に係る契約で同日以降に締結されるものに関する事務については、適用しない。

**附 則（平成31年1月17日）**

- 1 この要項は、経済上の連携に関する日本国と欧州連合との間の協定が効力を生ずる日から施行する。
- 2 この要項は、この要項の施行の日前において行われた告示その他の契約の申込みの誘引に係る契約で同日以降に締結されるものに関する事務については、適用しない。